

## 川越市の概要

川越市は埼玉県の中央部よりやや南部、武蔵野台地の東北端に位置している。市域は東西 16.27km、南北 13.81km で、総面積 109.16 k m<sup>2</sup>の中核都市である。西から東へ向けて緩やかに傾斜しているが全体的には平坦で、地形は、おおまかに北東部の水田地帯、中央部の市街地、南西部の畑地帯に分けられる。都心より 30km 圏内の首都圏に位置するベッドタウンでありながら、商品作物を生産する近郊農業、交通の利便性を生かした流通業、伝統に培われた商工業、豊かな歴史と文化を資源とする観光など、充実した都市機能を持ち衛星都市として発展している。明治 22 年に町制を施行、大正 11 年に埼玉県で最初の市として市制を施行し、昭和 30 年に隣接する 9 か村を合併し現在の市域となる。

川越市の人口動向は、大正 11 年に 30,359 人でスタートして以来、昭和 30 年の合併で 10 万人を越え、その後も順調に増加を続けて、平成 14 年 8 月 1 日現在、人口は 330,195 人、世帯数は 124,239 世帯になった。近年の傾向としては、出生率の低下などで伸び率が低くなっているが、全体としてはやや増加傾向にある。

交通は、JR 川越線・埼京線が市のほぼ東西を横切り、南東から北西にかけて東武東上線（営団地下鉄有楽町線の相互乗り入れ）が延びて川越駅で交差しているほか、西武新宿線の始発地、本川越駅がある。川越駅から池袋までは東武東上線急行で約 31 分、新宿までは埼京線通勤快速で約 48 分である。バスは川越駅、本川越駅を中心として東武バスと西武バスが市内及び隣接市町村へ運行し、市内循環バス（川越シャトル）が東西南北 4 コースで運行している。また、道路は国道 16 号と国道 254 号（川越街道）が交差し、県道川越・所沢線、同川越・上尾線、同川越・栗橋線、同川越・日高線、同川越・坂戸・毛呂山線等の主要道路が市内を放射状に走っている。市内には関越自動車道の川越 IC があり、隣の鶴ヶ島 JCT が平成 8 年に圏央道と接続したことにより、周辺市町村からのアクセスが向上した。

商業施設は、川越駅から本川越駅に至るクリアモール通りの商店街が市の中心である。川越駅東口のアトレ、マイン、丸井のほか、商店街の中心をなす丸広百貨店、本川越駅周辺のペペ、イトーヨーカドー等の大規模小売店舗をはじめ、多くの各種小売店舗が連たんしている。

川越市は、「小江戸・川越」と呼ばれ、蔵造りの町並み、時の鐘、菓子屋横丁、喜多院等を多くの人が訪れる観光地である。平成 11 年には市街地にあたる幸町の全域及び元町 1、2 丁目、仲町の各一部を含む約 7.8ha が川越市川越伝統的建造物群保存地区として都市計画決定された。これにより歴史的風致を損なわないよう建築等に際しては市の許可が必要となった。

平成 14 年 8 月 9 日作成